

# 区議会レポート

# 74号

葛飾区議会議員

## かわごえ誠一

本号の内容

表面：区議会第二回定例会など

裏面：タウンミーティング報告

2021年7月15日発行

《発行》

かつしか区民連合

【区議会控室】 〒124-0012

東京都葛飾区立石 5-13-1

電話 03-3695-1111 (代)

f a x 03-3697-0137



## 令和3年区議会第一回臨時会・第二回定例会開催

### ■令和3年第一回臨時議会■

～第二次補正予算 2億9,566万円～

◆令和3年区議会第一回臨時議会が4月21日に開かれ、子育て世帯生活支援特別給付金事業費（ひとり親世帯向け5万円）として第二次補正予算2億9,566万円が議決されました。

### ■令和3年第二回定例会■

～第三次補正予算 39億1,939万円～

◆令和3年区議会第二回定例会が6月7日から23日までの17日間の会期で開かれ、「子育て世帯生活支援特別給付金事業費（ひとり親世帯以外の世帯5万円）」や「水

害対策（京成本線荒川橋梁フェンス改修工事など）、「デジタルプレミアム付商品券発行业業」などを含む第三次補正予算39億1,939万円が議決されました。

～第四次補正予算 9億4,881万円～

◆また、本会議最終日に「新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金支給事業経費」として第四次補正予算9億4,881万円が上程され議決されました。

～葛飾区基本計画・前期実施計画～

◆第二回定例会では今後10年間の区の方角を示す「葛飾区基本計画」が報告されました。同時に基本計画を実行するための「前期実施計画素案」が報告され、現在パブリックコメント（7月21日〆切）が募集されています。

### ◆東京都議会議員選挙について

確定投票率 葛飾区 40.01% (前回 49.96%) 東京都 42.39% (前回 51.28%)

期日前投票 葛飾区 13.40% (前回 12.23%) 東京都 12.38% (前回 11.78%)

◆東京都議会議員選挙が6月25日に告示され、7月4日投票開票されました。期間中の選挙活動へのご協力感謝申し上げます。今回の都議選は期日前投票が伸びた一方、投票率が低く、政治と生活をどう結びつけていくかが大きな課題と感じさせられました。日々の活動を見つめ直し、改めて信頼される政治を目指してまいります。

※なお立憲民主党から公認を得た岩崎孝太郎氏が議席に届かなかったことについて、応援をいただいた皆さまにお詫び申し上げます。

順位	政党名	候補者名	得票数
1	公明党	北口 つよし	30,725
2	日本共産党	和泉 なおみ	24,498
3	都民ファーストの会	米川 大二郎	23,063
4	自由民主党	平田 みつよし	22,404
5	自由民主党	舟坂 ちかお	16,595
6	立憲民主党	岩崎 孝太郎	15,443
7	無所属	小川 ゆうた	4,283
8	無所属	中谷 基志	2,499
9	つばさの党	根本 りょうすけ	1,892
10	テレビ改革党	高橋 じゅんや	1,862
11	議席を減らします党	黒瀬 のぶあき	1,497
12	SDGs党	ごとう てるき	1,326
13	(略) 愛の方でLGBT差別・動物殺処分解決の党	河合 ゆうすけ	929

### ■かわごえ誠一連絡先■

〒124-0012 葛飾区立石8-47-18

携帯電話 090-2932-7315

e-mail : info@kawagoeseiichi.com

かわごえ誠一オフィシャルサイト

[www.kawagoeseiichi.com](http://www.kawagoeseiichi.com)

日々の活動はFacebookをご覧ください。

### ◆かわごえ誠一プロフィール◆

●昭和38年3月川崎市生まれ ●東海大学第二工学部建設工学科卒業  
●立石在住32年 ●防災士 ●保育園/学童保育クラブ父母会、小・中学校PTA連合会、おやじの会、図書館友の会、子育てネットワーク、保田しおさい学校、三番瀬保全活動などに携わる。●元東京工業大学附属科学技術高校非常勤講師 ●本田消防団第四分団員 ●葛飾区ボッチャ協会会長 ●元都議会議員伊藤まさき秘書を経て平成25年区議会議員選挙で初当選・平成29年二期目当選 ●区議会所属：文教委員会・副委員長／地域活性化・区民サービス向上対策特別委員会／広報委員会

## ■COVID-19 緊急事態宣言発出

◆新型コロナウイルス感染症拡大により7月12日から8月22日の期間、緊急事態宣言が発出されました。◆葛飾区として、公共施設・スポーツ施設の20時での閉館

などの制限や、収容人数を定員の50%とするなどの対応を実施しています。利用時に各施設にご確認下さい。

◆教育委員会関係では岩井臨海学校の中止、東京2020大会観戦中止が決定しました。◆葛飾区の緊急事態宣言の対応の詳細は葛飾区ホームページをご確認下さい。

## タウンミーティング「ヤングケアラーを知っていますか？」報告

◎去る5月26日(水)にかわごえ誠一オンラインタウンミーティング「ヤングケアラーって知っていますか？」を開催しました。今回のタウンミーティングは新型コロナウイルス感染 COVID-19 による緊急事態宣言下で初めての zoom による開催となりましたが、全国各地から多くの方にお申し込みいただき、関心の高さがうかがえました。

### ■ヤングケアラー支援の経緯■

◎かわごえの今までのヤングケアラー支援への取組みとして、2015年1月に「障がいを抱える家族を持つ子どもたちへの支援」としてヤングケアラーに関してのタウンミーティングの開催や、2016年第四回定例会、2018年第四回定例会で一般質問を重ねてきました。2019年11月には区民大学講座の開催が実現する一方、子ども・若者計画や地域福祉計画の中にヤングケアラーの概念を盛り込むための働きかけを進めてきました。

### ■あなたのとなりのヤングケアラー■

◎今回のタウンミーティングの基調講演として一般社団法人ケアラー・アクション・ネットワーク(CAN)の持田恭子さんから、「あなたのとなりのヤングケアラー」と題して講演をいただきました。以下概要です。

◆ヤングケアラーとは◆ ヤングケアラーについて今春、厚労省での調査が報告されてから、報道などで注目されてきた。ヤングケアラーの法令上の定義はないが、ケアを必要とする家族がいる18歳未満の子どもの総称を指す。ヤングケアラーは親の介護・見守り・ケアや「きょうだい」のケアをしている子どものほか、生活困窮・外国籍の子ども(親の言葉に関わるケア)なども含む。4月の厚労省の全国調査では中学2年生で17人に1人、高校2年生で24人に1人の割合でヤングケアラーがいるとの結果が出た。その中で「きょうだい」のケアをしているという回答が一番多いことが読み取れる。

◆ヤングケアラーが抱える困難◆ ヤングケアラーは周囲に障害者がある家庭内のことが話せないなどの孤立や、将来への不安、就労の機会が奪われるなどがあり、生きづらさを抱えて成長することが少なくない。課題として公的支援などヤングケアラーへの支援の仕組みがないことがある。ヤングケアラーであること自体が問題ではない。子どもの人権を中心に考え、子どもだけで解決できないことを、解決するためにどのように支援をするかが重要だ。

◆ヤングケアラーを支えるために◆ ヤングケアラー当事者から同じ立場の仲間が集える場、居場所や福祉、介護の専門家と繋がりたいとの思いが寄せられている。コロナの中でもオンラインで交流を進めているが、

参加した子どもたちは積極性が生まれるなどの変化が生じている。今後、自治体や支援団体の連携を進める必要がある。一方で学習支援・居場所支援などをする民間団体同士の連携も必要だ。

◆ヤングケアラー支援が目指すこと◆ ヤングケアラー支援は社会の中にある分断を無くし、誰もが違いを認め合える社会を作ることにつながる。家族の問題は家族で行うという価値観から脱却し、社会が大きく変わるチャンスになる。

### ■ヤングケアラー支援の取組み■

◎後半は各方面からの情報提供をいただきました。

◆教育委員会から◆ 学校教育支援担当課長から「現状ではヤングケアラーだけの支援はしていないが、総合教育センターとして子どもの多様な課題に対しスクールソーシャルワーカーと連携し取組んでいる。今後、ヤングケアラーについて校長会などで周知していく」と報告をいただきました。

◆子ども応援課から◆ 子ども応援課長から「課題を抱えた子どもや若者支援のために子ども・若者計画を策定し、子ども・若者支援活動への助成などを実施している。区内にヤングケアラー当事者団体などがあれば支援が可能」との報告がありました。

◆各現場から◆ 区内で困難家庭の子どもたちに学習支援や居場所を展開している「Learning for All(ラーニング・フォー・オール・LFA)」のスタッフから、「子ども支援の活動の中にもヤングケアラーと推測される子どもが見受けられる。ヤングケアラー支援へ知識の必要性を感じる」といった発言がありました。また、障害児者の兄弟・姉妹で作る「全国きょうだいの会」の田部井恒雄さんから「会としてヤングケアラーに関するアンケート調査に取組んでいる。今後結果が出たら報告したい」との情報提供がありました。

■まとめ■ ◎現在、埼玉県など自治体でケアラー支援条例策定など動きが見えてきましたが、国レベルでの制度が待たれます。それを待つだけでなく私たちが取組むべきはまず、ヤングケアラーの認識を深めることと、区や地域、支援団体など関係者との連携した当事者へのサポートです。その子どもや若者が自分の人生を豊かに生きられる社会を目指したいと思います。

